

みどり

第34号

題字：村上昭史 園長



私たちは家族 一家族として望む支援を利用者に一

川部みどり園長 村上 昭史

私が4月に園長として赴任した時は、みどり園は新体系に移行して2年目を迎えた時期でした。組織の枠組みが整ったので、今後はより一層の内的充実を目指そうと考えました。利用者の意向を尊重しながら、利用者を自分の親や兄弟姉妹あるいは子などの家族としてみたとき、家族にとっても納得のいく支援をしようとの思いを年度目標に掲げた言葉が冒頭の表現です。

今年度は、虐待防止や権利擁護は言うまでもなく、昨年の震災を契機に高まっている防災対策を強化し、

安全な生活をまず基本とします。

新たな事として、児童福祉施設の最低基準の改正に応じて、被虐待児への心理指導のために心理職員を配置しました。また、自閉症の特徴を強く持つ利用者へは「発達障害児等支援対策事業」を実施して、科学的な支援の展開を考えています。県立施設としての力量を発揮できるよう、職員一丸となって支援の質を向上させ、家族や利用児・者の期待に応えるべく充実を期したいと思っています。

児童課

みんなで児童課をもりあげよう!

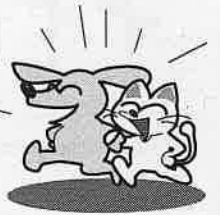
わかば児童課長 三井早苗

希望の春を迎えて子ども達の新しい1年がスタートしました。3月には名残惜しくも、慌しく5名の子ども達を家庭や成人入所施設に送り出し、同時に3名の新しい子ども達が仲間入りし、賑やかで元気なわかば児童課が引き継がれました。『今年度はどんな事に挑戦しようかな?』とワクワク気分で迎えた24年度です。児童福祉施設の宝物、醍醐味はまさに子ども一人ひとりの成長であり、若葉のごとくぐんぐん伸びるエネルギーを実感するところにあります。

また今年度は児童福祉法改正により、わかば児童課の施設種別が『福祉型障害児入所施設』となりました。平成24年度わかば児童課運営方針を下記のとおり決めましたので、ご紹介させていただきます。

- 1 児童発達支援管理責任者の配置により、適切なアセスメントと個別支援計画により利用児本位、人権擁護、エンパワメントに基づく支援を実施する。
- 2 被虐待障害児に対し、心理職員による心のケアや、担当との時間を定期的にとることにより、安心して生活できる場の確保に積極的に取り組む。
- 3 発達障害児等支援対策事業の取組みにより、自閉症児への有効な支援方法を確立する。

エイエイオー!



そして合言葉は子ども達が考えた“みんなで児童課をもりあげよう”です。

西棟 子どもたち

西棟では、現在4才から18才までの21名の子ども達が生活しています。近年では、最も多い入所者数になっていますが、まとめ役の上級生がよきリーダーとなって、「狭いながらも、楽しい我が家」に近づきつつある、いい雰囲気の日この頃です。

今年度の西棟の主な目標は、

①部活動をがんばろう

中高生については、できるだけ全員参加を目指しています。

②児童会活動の中で自主性を養う。

「西っ子児童会」の中で、それぞれが意見を出し、話し合うことにしています。

③自力で通学しよう

今年度から中学部も自転車通学が許可になりました。自転車検定に合格した希望者は、自力で学校に通学できる日をととても楽しみにしています。(自転車通学児童は近々、7名になる予定です)

これからも子ども達がホッと安心して生活できる西棟を目指しています。



(西棟棟長 熊井)

北棟 「小さな一歩」を目指して

園庭のチューリップや桜の花が満開の頃、北棟の子ども達もそれぞれ新しい学年に入学、進級し、園内保育、年長活動、川岡幼稚園、川岡小学校、中部養護学校で頑張っています。

幼稚園や学校でしっかり学習や活動をして帰ってくる棟内は、まずは元気にそしてゆっくり安心して過ごせる場でありたいものです。

香川大学の坂井准教授のアドバイスもいただきながら、幼児から年長児の一人ひとりが落ち着いて生活したり楽しく遊べる環境作りや支援をしていこうと取り組んでいます。個々の「小さな一歩」の成長を報告できたらいいなと思っています。



(北棟棟長 原)

川岡地域の一員として

川岡小学校大運動会 5月19日

風薫るさわやかな空の下、川岡小学校にて大運動会が開かれました。地域の方も大勢、参加されていて地域に密着したすばらしい運動会でした。

みどり園のどの子ども達も元気よく体操したり、精一杯走ったり、演技していました。とりわけ私が心ひかれたのは5・6年生による組み立て体操でした。ピーッと鳴る笛に合わせてきびきびと次の動作に移り、2段、3段、4段とピラミッドを作っていきます。はらはらどきどきしながら、頑張れと心の中で念じます。上段に上った子どもがぱっと手を広げて型を決めたとき、やった!と思わず拍手しました。

それにしてもW.S君はすごく頑張りました。小学校最後の運動会を見事、決めました。完璧に細かい動きや振り付けを覚えていて、颯爽とした身のこなしに感動しました。S君、格好よかったです!!

(西棟 岩崎)



地域生活支援課

介護班

豊かな生活をめざして

「家族と外に出かけたいけど、なかなか難しい」と言う人が多い中、生活介護班はバス外出を各班年間6回予定しています。5月にA班はまんのう公園、B班は峰山公園、C班は仏生山公園へお弁当持参で出かけました。さわやかな自然の空気の中でみんな伸び伸びとした笑顔でした。今後も外に向かって新たな体験を広げたいと思います。



また、コミュニケーション支援の向上のため昨年に引き続き、香川大学 坂井准教授に来ていただき、講義と実地指導を毎月1回お願いしています。言葉がなくても通じ合える、理解し合える方法を探っています。



利用者の方たちが、楽しく生き生きと生活する場となるよう活動します。
(生活介護班長 藤田)

訓練班

生活訓練班の三本柱
「学習会」、「班員会議」、「SST」

今年4月、訓練班は昨年度から継続の7名に、新たに2名が加わり、9名でスタートしました。5月、6月にはまた新しい利用者さんをお迎えしました。利用者さんの大半が、10代、20代の若者で、訓練班はいつも元気でにぎやか。写真は、先日梅の収穫をしたところです。みんなで協力しあって作業しています。

でも、時には勢い余ってつい脱線したり、衝突も。そんなとき、「こういうときは班員会議をしたらえんや」という声が上がります。



困ったことが起こったら、みんなで話し合って案を出しあう、そして、みんなで守るルールを決める、それが「班員会議」です。「学習会」でテーマ

を決めて社会生活のスキルを学び、「SST」では良いコミュニケーションの仕方を互いに練習しながら身につけていきます。これらを通して社会生活能力の獲得をめざしています。まだまだ成長途上の訓練班を、どうぞよろしく願いいたします。

(生活訓練班長 松本)

就労班

就労移行支援班
— 就職に向けて —

3か月間のトライアル雇用を経てMさんは正式雇用となりました。企業からは「スピードはないが丁寧な仕事をしてくれる。丁寧さが一番大事で速度の遅さは気にしていない。勤務態度も極めてよい」とのお言葉をいただきました。おめでとうMさん。

続いてTさんが実習に入っています。スキルは十分で企業から「戦力になっている」と評価をいただいています。コミュニケーションが苦手なTさんには様々な関係機関とチームを組んで職場に慣れるよう支援・サポートし、就職につなげたいと考えています。

さらにHさんの実習を計画中です。調理の仕事がしたいHさんに二つの実習先を確保しています。皆さん就職に向けて雄雄しく羽ばたいております。

(就労移行支援班長 沼田)

成人課

南棟の取組み

成人課南棟では、今年度は特に余暇活動の充実力を入れています。春はつくし採りやお花見をして季節の移り変わる様子を楽しみました。また、週末は運動場に出てキャッチボールやマラソンの練習、コンビニやショッピングセンターへの買物外出など、個々人の希望に沿った活動を取り入れています。夜は日記や算数・漢字の課題に取り組んだり、好きなCDを聴いたりテレビを見たりと、それぞれが充実した時間を過ごしているようです。

Nさんは週末は作文を書くことにしており、パソコンを使って日々の出来事を伝えてくれます。せっかくなので紹介したいと思います。

「自分が、今、楽しい事」

今、自分が楽しい事は部屋で音楽を聞くのがとても楽しみです。たとえば、どんな音楽を聴いているかと言うと、槇原敬之の曲とかSMAPの「世界に一つだけの花」とか米米CLUBの「浪漫飛行」を聴いています。とてもいい曲だと思います。そして、時々パソコンをして遊んでいます。とても面白いです。南棟のアジサイ広場でキャッチボールをする時もあります。そして、みどり園の運動場に行って、陸上の練習をしています。とてもしんどいですが頑張っています。夜には、毎日「課題と日記」をしています。とても楽しいです。だから、これから自分が楽しいことを見つけていきたいと思っています。

Nさん



みどり園まつりの案内

今年もみどり園まつりを盛大に開催することに決定しました！

10月20日(土) みどり園体育館にて様々な催しものを計画中です。

是非、ご家族ご友人の皆様でご来園下さい。利用者、職員一同心よりお待ちしております。



保育室が引越しました！

今年4月、成人課南棟の空き居室に保育室が引っ越しました。幼稚園に通っていない未就学児童2名と年長児童が利用します。工作をしたりおやつを食べたりする机のコーナー、滑り台やマットのある遊び場コーナー、おもちゃや絵本のコーナーに分けて、子ども達が過ごしやすいように工夫しました。また、窓の外には芝生が広がり、子ども達は喜んで遊んでいます。

保育活動では、園内の保育室だけでなく、地域の幼稚園の園庭開放に出かけたり、車に乗って遠足に出かけたり、社会体験の機会も設けています。



心理室ができました！！

今年度より、子ども達に対する支援策の一環として、心理室が設けられました。みどり園の子ども達の中にも、虐待を受けた経験があるなど、心に傷を負った子どもが年々増えてきています。そうした子どもと定期的に面接をし、心理的ケアを行っています。



避難訓練の取組み

近年、我が国では、巨大地震等の発生や気候変動に伴う災害の発生など、災害リスクの高まりが懸念されています。



こうした中、川部みどり園では、火災・震災などの災害に対し、利用者の皆さんの安全を図り、災害による被害を防ぐため、毎月避難訓練を実施しています。また、地域の自治会の皆さんや消防署、警察署などで構成する地域防災対策連絡会を設置し、災害時における地域の方々のご協力をお願いしています。

今後、安全で安心して利用できる「川部みどり園」の実現に向けた取組みを進めることがますます重要になってきており、防災対策についてもさらなる充実強化を図ります。



トピックス



—私達は家族— を感じた運動会



香川中部養護学校の運動会が、5月19日には高等部、6月9日には幼・小・中学部とそれぞれ開催された。

高等部のみどり園の生徒達は、国旗行進の旗持ち役をしたり総踊りの時に指揮台に上がって全生徒の模範になるなど、学校行事の要として動いている姿が目立った。各競技の合間に運動場に道具を出し入れする時の、きびきびした動作に、一緒に見ていた職員と「うちの子は、しっかりやりようるなあ。学校の中核メンバーなんや」と話したものである。

小・中学部ではやはり随所に園の子らの活躍が見られ、徒競走の堂に入ったフォームやダンスの笑顔に、子どもらしい思いを感じた。家族も何人か来てくれ、運動会らしい雰囲気盛り上がった。徒競走で父親と手をつないで走っている園児の表情が輝いて見えたのは、ひいき目だったろうか。

運動会では、いろいろな場面で「うちの子」という表現を使っている自分に気がついた。24年度のみどり園のスローガン『私達は家族。家族として望む支援を利用者に』を意識していたわけではないが、年度当初に挙げたテーマがリアリティを持って感じられた二日間だった。一体感を覚えた、この子達の一所懸命な姿や、仲間を応援する歓声を間近に、未来を支えなければと気持ちを新たにした運動会でもあった。

(園長 村上昭史)

編集後記

「私たちは家族 一家族として望む支援を利用者に」のスローガンの下、24年度が始まって4か月が経ちました。「家族」だったらこんな時どうしてほしいだろう？利用者の方々と一緒に、細かなものから大きなものまで日々悩みは絶えません。でも、それでこそ「家族」なのかも。悩みながら、利用者の方々と共に楽しい毎日をつくっていきたくて考えています。(C.S)

編集・発行 〒761-8046 高松市川部町418
香川県立川部みどり園 TEL代087-885-8600
E-mail:midorien@pref.kagawa.lg.jp
http://www.pref.kagawa.lg.jp/shogaihukushi/midorien/

<研修会のご案内>

○相談支援従事者初任者研修

8月17日(金)、8月20日(月)、8月27日(月)
8月30日(木)、8月31日(金)

その他、障害者虐待防止研修を9月中に開催予定です。
研修の詳しい日程等については、決まり次第みどり園のホームページに掲載しますので、ご覧ください。